

取扱説明書

ティルト & リクライニング車いす アクトモア ネットティⅢ

このたびは、本製品をご利用いただき、まことにありがとうございます。
この「取扱説明書」には、本製品を安全にお使いいただくための注意事項
や使用方法などを記載しています。

- 本製品をお使いになる前に、必ずこの「取扱説明書」をよくお読みいただき、正しく安全な取扱方法を理解してください。
- この「取扱説明書」はお読みになった後も、いつでも見られる場所に保管してください。
- 本製品は、改良などにより「取扱説明書」の内容と一部異なる場合もあります。
- ご不明な点がありましたら、当社までお問い合わせください。

株式会社フロンティア

1 ご使用上の注意

危険

【死亡または重傷を招くもの】

- 急な坂道では使用しないでください。
- 車道を通らないでください。
車いすは歩行者として扱われます。車道を通らず、必ず歩道、または道路の右側を走行してください。
- スピードを出さないでください。
スピードが出ているときの急カーブ、急停止は転倒するおそれがあり危険です。
- 溝や踏切の線路での落輪、キャストの挟み込みには十分注意してください。
- キャスタや駆動輪が外れないか確認してください。
正しく取り付けられていない場合、キャストや駆動輪が外れ、転倒しケガをするおそれがあり危険です。

警告

【死亡または重傷を招く可能性があるもの】

- 取り扱いが理解できないと思われる方が使用する際には、十分注意してください。
取扱説明書に書かれた内容が理解できないと思われる方（幼児や認知症の方など）が使用する場合には、保護者、介護者などが必ず取扱説明書に従った使用を確保し、本人による製品の誤動作、その他誤った使用方法による事故を未然に防いでください。
- 使用する前に駐車ブレーキの利きを必ず確認してください。
- アームサポート（肘置き）やフットサポート（足置き）は必ず取り付けて使用してください。
走行中、体が不安定になり危険です。
- 本製品から乗り降りするときは、必ず左右の駆動輪に駐車ブレーキをかけてください。
車いすが動いて事故につながる可能性があります。
- 乗り降りをするときは、駐車ブレーキのレバーに体重を掛けないでください。
レバーが破損・変形し、転倒するおそれがあります。

警告

【死亡または重傷を招く可能性があるもの】

- フットサポート（足置き）に立ったり、直接体重を掛けないでください。
フットサポート（足置き）が破損したり、バランスを崩し倒れるおそれがあります。
- 本製品を駐車するときは、水平で平坦な場所に駐車してください。
坂道などの傾斜がある場所では、駐車ブレーキを使用しても車いすが動く場合があり、転倒などの事故につながるおそれがあります。
- アームサポート（肘置き）、フット・レッグサポートの取り外し・取り付けは、必ず駐車ブレーキをかけて行ってください。
- 移乗や、座面角度調整、背もたれ角度調整、フット・レッグサポートのエレベーター角度調整をするときは、必ず駐車ブレーキをかけ、転倒防止バーの小車輪を下に向けてください。
- ヘッドサポートやアームサポート（肘置き）、フット・レッグサポートを持って本製品を持ち上げないでください。
外れてケガをするおそれがあります。
- 本製品を物品運搬や歩行の補助具としてなど、車いす以外の目的で使用しないでください。
- 本製品の利用者最大体重（145kg）を守ってください。
- 本製品は1人乗り用です。2人以上で座ったり、動かさないでください。
- バックサポート（背シート）に重い物などをかけないでください。
転倒するおそれがあります。
- 利用者が乗っている状態で本製品を持ち上げないでください。

注意

【軽傷または中程度の傷害を招く可能性があるもの】

- 乗る前に駆動輪・キャスタ・駐車ブレーキなどのネジを点検し、ゆるんでいるときは増し締めをしてください。
- フットサポート（足置き）は、屋内で使用するときは地上高より3cm以上、屋外で使用するときは地上高より5cm以上、上げた状態で使用してください。
- 転倒防止バーは常に小車輪が下を向くようにしてください。特に、段差を乗り越えるときに転倒防止バーの小車輪を上に向け、通過後には元の位置に戻し忘れないよう、注意してください。
- ヘッドサポートを持って座面角度の調整や背もたれ角度の調整をしたり、移動をしないでください。
部品が破損するおそれがあります。
- 走行中、足がフットサポート（足置き）から落ちないようにしてください。
- 走行中、体を乗り出さないでください。
走行の安全を損ない危険です。
- 利用者が本製品に完全に座れているか確認してから走行してください。
体の一部や衣服が主輪に挟まれていると危険です。
- アームサポート（肘置き）を下げる時、手や衣服を挟み込まないように、注意してください。
- 駆動輪を握って本製品の操作をしないでください。
指を挟みケガをするおそれがあります。
- 駆動輪のスポーク部に指を差し込まないでください。
ケガをするおそれがあります。
- 分解や改造をしないでください。
強度や耐久性が低下し、危険です。
- 本製品を火気に近づけないでください。
座席のシートが燃えたり、熱くなった金属部でやけどをするおそれがあります。
- ナット、ネジなどの細かい部品を紛失しないよう注意してください。

2 製品の特徴

- おしりや太ももだけでなく背中にも体圧を分散できる座面角度調整（ティルト機能）と、背もたれ角度調整（リクライニング機能）で、安定した座位を保持できます。
- フットサポート（足置き）や、アームサポート（肘置き）の高さ調整、座奥行の調整機能、ヘッドサポートの高さ・角度・奥行調整機能付きで、利用者の体に合わせた調整が可能です。
- 背張り調整機能で、より安定した姿勢が保てます。
- 左右独立したフット・レッグサポートの前後調整によりあらゆる姿勢の方に適合できます。

3 各部の名称



4 適合調整

1. 駆動輪、キャストの脱着

駆動輪の脱着

駆動輪を本体フレームから取り外すことができます。
車軸から側面に出ている中央のボタンを押しながら手前に引いて駆動輪を外します。

※取り付ける場合は、ボタンを押しながら車軸を本体に差し込んでください
差し込みが不完全の場合、走行中に外れてケガをするおそれがあります。

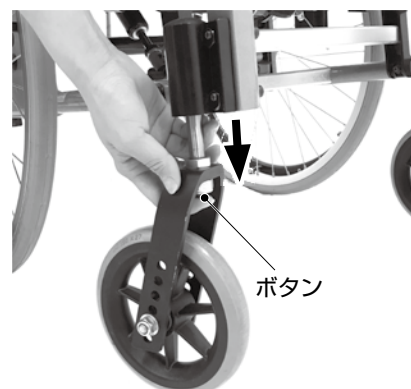


キャストの脱着

キャストを本体フレームから取り外すことができます。
キャスト上部に出ている中央のボタンを押しながら真下に引いてキャストを外します。

⚠ 危険

取り付け後は必ず確実に固定されているか確認してください。
差し込みが不完全の場合、走行中に外れてケガをするおそれがあります。



2. 座面高の調整

駆動輪の車軸位置とキャストの高さを調整することで、座面の高さを調整することができます。

調整可能な寸法はP12「9 仕様」を参照ください。

※車軸を調整する場合は、必ず当社までご連絡ください

車軸の調整

《後座高の高さ調整》

サイドフレームにある車軸の位置を上下2ヶ所から選び、後座高の高さを調整することができます。

《駆動輪の前後位置調整》

サイドフレームにある車軸の位置を選び、駆動輪の車軸を前後に調整することができます。

⚠ 警告

車軸の位置を調整する場合は、必ず転倒防止バーの調整をしてください。

(P7 4 適合調整「9. 転倒防止バーの調整」参照)



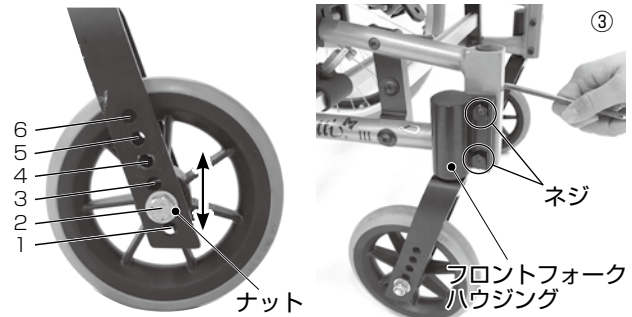
前座高の調整

上記車軸位置に合わせて、前座高の高さを調整します。

前座高の高さは、42～46cmまで調整ができます。

- ① フロントフォークのキャスト固定ナットをゆるめて取り外します。(13mmスパナ使用)
- ② 下記表を参考に穴の位置を決めてナットを差し込み確実に締めてください。
- ③ フロントフォークハウジングの角度が垂直になるように、上下2ヶ所のネジを回転させて調整してください。

※前座高を調整する場合は、必ず当社までご連絡ください



【車軸位置とフロントフォーク穴位置の適合表】

車軸位置(後座高)	フロントフォーク穴					
	1	2	3	4	5	6
低(42cm)	○	○	○	○	×	×
高(45cm)	○	○	×	×	×	×

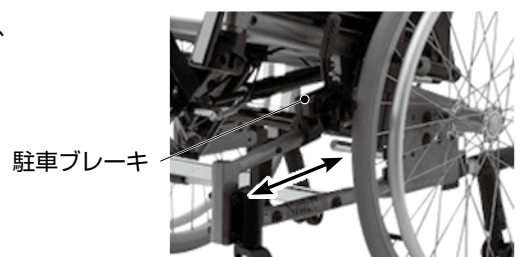
※位置の組み合わせによっては座面角度調整(ティルト機能)の範囲は変わります

3. 駐車ブレーキの調整

- ① 本体フレームの内側のブレーキを固定しているネジ2ヶ所をゆるめ、前後にスライドさせます。(5mm六角棒レンチ使用)
- ② 位置が決まったらネジ2ヶ所を確実に締めます。

⚠ 危険

駐車ブレーキ調整後は必ず、駐車ブレーキの利きを確認してください。



延長ブレーキのつけかた

- ① 駐車ブレーキ本体の外側のネジを外し駐車ブレーキを外します。(4mm六角棒レンチ使用)
- ② 延長ブレーキのレバーを差し込み、ネジを再度取り付け固定します。



4. シート(座面)の奥行き調整のしかた

シート(座面)の奥行きは40~50cmまで5段階で調整可能です。

- ① シート(座面)下のシリンダーロックピンを外します。
シリンダーブラケットとリクライニングシリンダーが
外れる状態になります。

※奥行きを短くする場合には、バックサポート(背シート)を倒してから
外してください

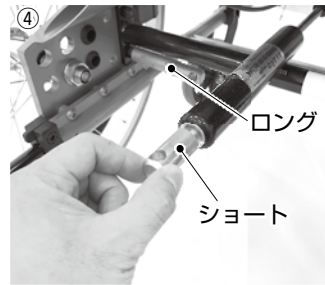
- ② 本体両側にあるバックサポート(背シート)のヒンジ部と本体フレームを
つないでいるネジを両側とも外します。(6mm六角レンチ使用)
 - ③ バックサポート(背シート)のヒンジ部をスライドさせ、奥行きを調整します。
 - ④ 奥行きに合わせて、シリンダーヘッドを交換し、
シリンダーの取り付け位置を付け替えます。(下図参照)
- ※シリンダーヘッドは、フレームの左右をつないでいるパイプの下に付いています
- ⑤ 奥行きを調整後、シリンダーロックピンを取り付け、ネジを締めます。

△注意 シリンダーロックピンを差し込んだ後、バックサポート(背シート)が
確実に固定されていることを確認してください。

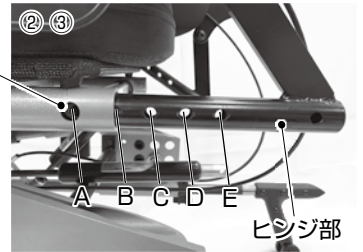
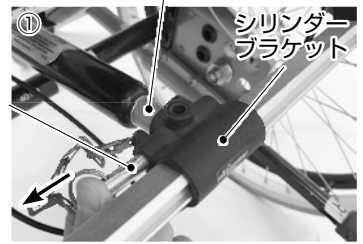
[座奥行き調整]

座奥行	バックサポート ヒンジ固定位置	シリンダー 取り付け位置	シリンダー ヘッドサイズ
40cm	E	前方	ショート
42.5cm	D	中	
45cm	C	後方	
45cm	C	前方	ロング
47.5cm	B	中	
50cm	A	後方	

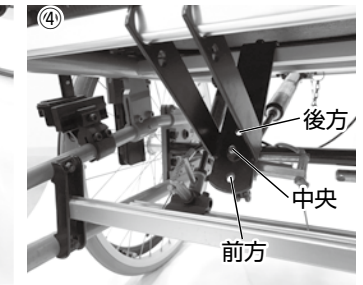
[シリンダーヘッドサイズ]



リクライニングシリンダー



[シリンダー取り付け位置]

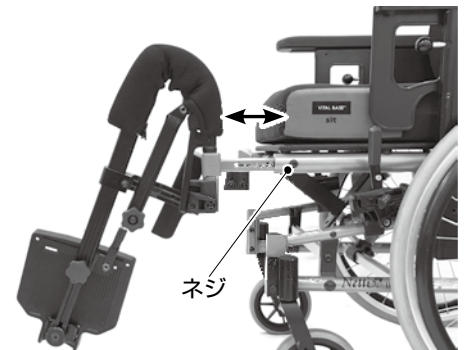


5. エレベータ式フット・レッグサポートの調整のしかた

エレベータ式フット・レッグサポートの前方調整

エレベータ式フット・レッグサポートの取り付け部は、左右独立して前方へ10cmまで長さ調整(無段階)が可能です。

- ① 本体フレーム前方にあるネジをゆるめます。(6mm六角レンチ使用)
- ② エレベータ式フット・レッグサポートの取り付け部を前後に
スライドさせます。
- ③ 長さを決めてネジを確実に締めて固定します。



フットサポート(足置き)とシート(座面)間距離の調整

フットサポート(足置き)は、シート(座面)の前端から39~52cmまで調整できます。

- ① エレベータ式フット・レッグサポートパイプの下側の
長さ調整ノブネジをゆるめます。
- ② 距離を調整し、ネジを締めて固定します。

フットサポート(足置き)の角度調整

フットサポート(足置き)は無段階で角度を調整できます。

- ① フットサポート(足置き)の横にある角度調整ネジをゆるめます。
(5mm六角レンチ使用)
- ② フットサポート(足置き)の角度を調整し、角度調整ネジを締めて
固定します。

△注意

- フットサポート(足置き)の上には絶対に立たないでください。
転倒するおそれがあります。
- エレベータ式フット・レッグサポートを持って、本製品を持ち上げないで
ください。
エレベータ式フット・レッグサポートが外れ、ケガをするおそれがあります。



6. カフサポート(ふくらはぎあて)の調整のしかた

カフサポート(ふくらはぎあて)の高さの調整

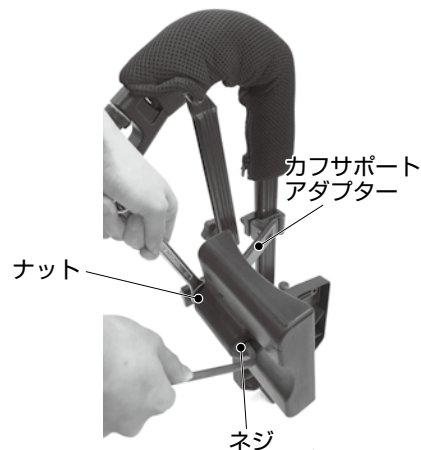
- ① カフサポート(ふくらはぎあて)を止めている高さ調整ナットをゆるめます。(10mmスパナ使用)
- ② 使用者の体に合わせて高さを合わせた後、高さ調整ナットを固定します。



カフサポート(ふくらはぎあて)の奥行き調整

カフサポート(ふくらはぎあて)の奥行きは4段階で調整可能です。

- ① カフサポートアダプターの外側にあるネジを反時計回りに回してゆるめて取り外します。(6mm六角レンチ使用)
- ② カフサポート(ふくらはぎあて)を取り外し、取り付け位置を変更し、13mmのスパナでナットをおさえながら、取り外したネジを時計回りに締めて固定します。



7. ヘッドサポートの調整のしかた

ヘッドサポートの高さ・奥行き・角度の調整

- ① Aのネジをゆるめて、ヘッドサポートの奥行きを調整します。
- ② Bのネジをゆるめて、ヘッドサポートの角度を調整します。
- ③ Cのネジをゆるめて、ヘッドサポートの高さを調整します。
- ④ それぞれ調整をしたら、ネジを締めて固定します。

※この順序と異なる順序で調整することも可能です

△ 注意 ヘッドサポートを持って座面角度調整・背もたれ角度調整をしたり、車いすの移動を行わないでください。
部品が破損する原因となります。



8. アームサポート(肘置き)の調整のしかた

アームサポート(肘置き)の高さ調整

アームサポート(肘置き)は18.5~32.5cm(6段階)まで調整が可能です。

- ① アームサポート(肘置き)の下部にある高さ調整レバーのロックを外します。
- ② 使用者の体に合わせて高さを合わせた後、高さ調整レバーを元の位置に戻すことで固定できます。

- △ 警告**
- アームサポート(肘置き)の高さを調整する際は、駐車ブレーキをかけた状態で行ってください。
本製品が勝手に動き出して大変危険です。
 - アームサポート(肘置き)を持って、本製品を持ち上げないでください。
アームサポート(肘置き)が外れ、ケガをするおそれがあります。

- △ 注意**
- 使用前に、アームサポート(肘置き)が確実に固定されていることを確認してください。
 - アームサポート(肘置き)に重いものをのせるなど、過度な荷重をかけないでください。

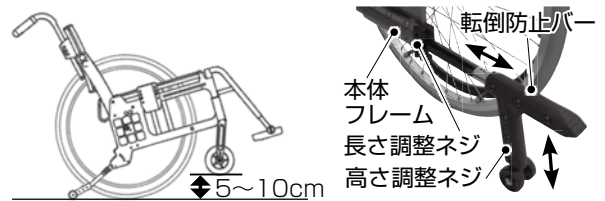


9. 転倒防止バーの調整

転倒防止バーの小車輪が地面に接地したとき、キャストと地面のすき間が5～10cmになるように調整してください。

高さ：1.5cm刻みの調整ができます。

- ① 高さ調整ネジを外し、六角ボルトを抜きます。
(5mm六角棒レンチ使用)
- ② 高さを調整します。
- ③ 高さ調整穴に六角ボルトを差しネジを締めて固定します。



長さ：無段階で調整ができます。

- ① 長さ調整ネジをゆるめます。
(6mm六角棒レンチ使用)
- ② 長さが決まったらネジを締めて固定します。

10. グリップ(押し手)高さの調整のしかた

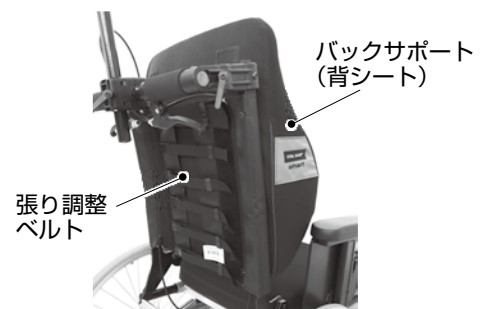
- ① グリップ(押し手)の下部にあるレバーをゆるめます。
- ② グリップ(押し手)を上下に動かし、高さを調整してください。
- ③ 位置が決まったら、赤い調整レバーで固定してください。
- ④ ①～③の手順で、もう片方のグリップ(押し手)も調整します。



11. バックサポート(背シート)の調整のしかた

張り調整のしかた

- ① バックサポート(背シート)を外します。
- ② 6本のベルトは、それぞれ張りの調整ができるので、使用者の背中形状に合わせて、ベルトを張ったりゆるめたりしてベルトを固定します。
- ③ バックサポート(背シート)を戻します。



高さ調整のしかた

バックサポート(背シート)を外し、使用者の身体状況に合わせて高さを調整し取り付けてください。

ポイント

奥まで腰掛けできるように臀部のスペースを空けてください。

5 使用前の準備と点検

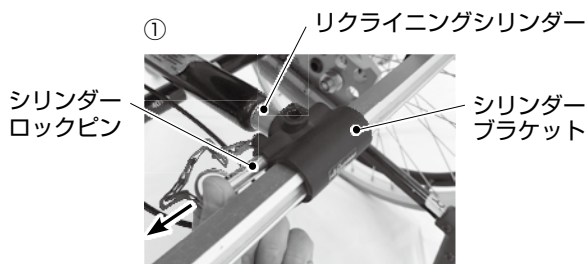
ご使用前に以下の点を確認してください

- 駐車ブレーキが駆動輪をロックすること。
駐車ブレーキの利きが悪いときには、当社へご連絡ください。
- 駆動輪が外れないこと。
ガタついているときは、ただちに使用を中止し、当社へご連絡ください。
- キャスタのネジがゆるんでいないこと。
ゆるんでいるときは、増し締めをしてください。
- フットサポート(足置き)は、屋内で使用する際は地上高さより3cm以上、屋外で使用する際は地上高さより5cm以上、上げた状態になっていること。
屋内では敷居など、屋外では段差などにフットサポートが当たらないようご注意ください。
- 転倒防止バーの小車輪部分が地面を向いていること。
小車輪部分が横を向いていると、転倒防止の効力が得られません。

6 使用方法

たたみかた

- ① シート（座面）下のシリンダーロックピンを外し、シリンダーブラケットからリクライニングシリンダーを抜きます。
- ② バックサポート（背シート）を座面側へ倒します。



エレベータリング式フット・レッグサポート

スイングアウトをするとき

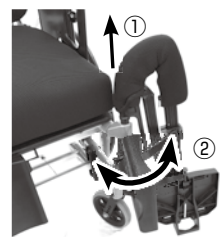
- ① エレベータリング式フット・レッグサポートを少し引き上げるとロックが外れます。
- ② エレベータリング式フット・レッグサポートを外側に回転させます。

取り外すとき

- ① フットサポートを折りたたみます。
- ② エレベータリング式フット・レッグサポートを少し引き上げるとロックが外れます。
- ③ エレベータリング式フット・レッグサポートを外側に回転させ両手で持ちながら垂直に引き上げます。

取り付けるとき

- ① エレベータリング式フット・レッグサポートを両手で持ちながら本体に垂直に差し込みます。
- ② エレベータリング式フット・レッグサポートを内側に回転させます。
- ③ エレベータリング式フット・レッグサポートが斜めになっていないことを確認し、下へ押し込むとロックがかかり固定されます。



角度調整（エレベータリング機能）

- ① エレベータリング式フット・レッグサポートの上側にある角度調整ノブネジをゆるめて角度を調整します。
- ② 調整後ノブネジを締めて固定します。
フットサポートの内側にあるロックを固定することで左右同じ角度に調整しやすくなります。

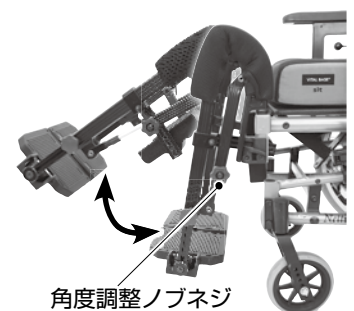
※エレベータリング式フット・レッグサポートの前方調整で左右の長さを変えた場合、フットサポートのロックが使用できません

警告

- エレベータリング式フット・レッグサポートの操作時は、必ず駐車ブレーキをかけて転倒防止バーの小車輪を下に向けた状態で行ってください。
- 本製品に使用者が乗っている状態でフットサポート（足置き）を調整する場合は、足を挟み込んだり、股関節や膝関節の可動域に支障をきたさないよう十分注意して行ってください。
- 走行する前に、フットサポート（足置き）が確実に固定されていることを確認してください。
- エレベータリング式フット・レッグサポートを持って、車いすを持ち上げないでください。バランスを崩して倒れる可能性があり、大変危険です。

注意

- 指を挟まないように気をつけてください。
- フットサポート（足置き）は屋内で使用するときは地上高より3cm以上、屋外で使用するときは地上高より5cm以上、上げた状態で使用してください。



転倒防止バー

移乗の際などに、車いすが転倒するのを防止します。

転倒防止バーは段差を乗り越える場合以外は常に小車輪が下を向くように回してください。

使用するとき

- ① 転倒防止バー本体を手前に引き、180度回転させて小車輪が下を向くように回します。
- ② 転倒防止バーが固定されていることを確認してください。

使用しないとき

- ① 転倒防止バー本体を手前に引き、180度回転させて小車輪が上を向くように回します。
- ② 転倒防止バーが固定していることを確認してください。

△ 注意 高い段差を乗り越える場合、転倒防止バーの小車輪を下ろしたままではキャストが浮き上がりません。
必ず転倒防止バーの小車輪を上向きに固定させてから操作を行ってください。



ヘッドサポート

身体状況に合わせてヘッドサポート (Cタイプ、Dタイプ) を選択できます。

※標準仕様のみメッシュ素材 (Cタイプ、Dタイプは防水素材)

取り外すとき

- ① ヘッドサポートの高さ調整ネジをゆるめます。
- ② ヘッドサポートの支柱を上へ抜いて取り外します。

取り付けるとき

- ① ヘッドサポートの支柱をアダプターに差し込みます。
- ② ヘッドサポートの高さを決めて、高さ調整ネジを締めて固定します。



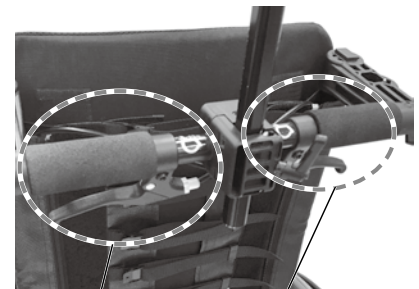
角度調整のしかた

背もたれ角度調整 (リクライニング機能)

背もたれ角度調整 (リクライニング機能) は88度～120度の範囲で行えます。

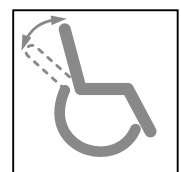
- ① ティルト&リクライニング操作フレームの右側にあるリクライニングレバーを握りながら角度を調整してください。
- ② レバーを離すと角度が固定されます。

△ 警告 背もたれの角度調整をする際は、必ず駐車ブレーキをかけ、転倒防止バーを下に向けてください。



[左レバー] ティルト

[右レバー] リクライニング



座面角度調整 (ティルト機能)

座面角度調整 (ティルト機能) は前傾11度～後傾14度の範囲で行えます。

※車軸、キャストの位置によって角度は変わるのでご注意ください

- ① ティルト&リクライニング操作フレームの左側にあるティルトレバーを握りながら角度を調整してください。
- ② レバーを離すと角度が固定されます。

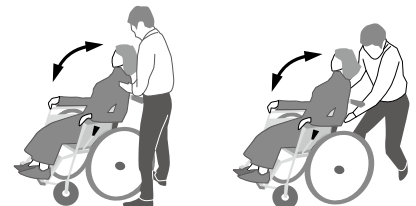
△ 警告 座面の角度調整をする際は、必ず駐車ブレーキをかけ、転倒防止バーを、下に向けてください。

ポイント

背もたれ角度調整と座面角度調整は同時に行わず、角度を倒すときは『①座面角度調整 (ティルト機能) → ②背もたれ角度調整 (リクライニング機能)』の順番で行うことをおすすめします。また、角度を戻すときは、『①背もたれ角度調整 (リクライニング機能) → ②座面角度調整 (ティルト機能)』の順番で行うことをおすすめします。

ただし使用者の状況や使用の目的によって、操作は異なります。

※側方から操作ができない場合、使用者に声かけするなど配慮してください



△ 注意 座面の角度がマイナスになっている状態から座面の角度を調整する場合、重く感じる場合があります。

移乗のしかた

下記の方法は様々な移乗方法の中のひとつです。使用者の身体状況や介助者の能力に合わせて、適切な移乗方法を選択してください。

- 移乗動作の準備をしてください。
- ① 駐車ブレーキを両輪に掛けてください。
- ② 乗り移る側のアームサポート（肘置き）を取り外し、エレベーター式・フット・レッグサポートは取り外すかフットサポート（足置き）を上げてスイングアウトしてください。

1人で車いすに乗り移るとき

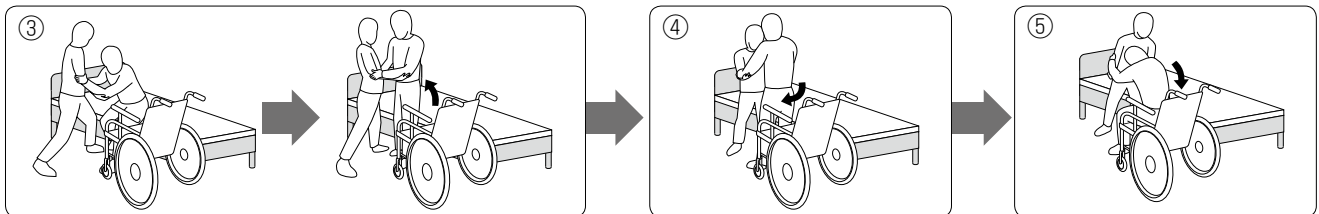
※車いすから降りるときは逆の要領で行ってください

- ③ 車いすをしっかりと保持し、腰を浮かせゆっくり乗り移ります。
- ④ アームサポート（肘置き）、エレベーター式・フット・レッグサポートを元に戻し、固定していることを確認してください。
- ⑤ フットサポート（足置き）を下ろして両足をのせます。

介助者と車いすに乗り移るとき

※車いすから降りるときは逆の要領で行ってください

- ③ 介助者が相手の身体状況に合わせて、体を支えながら立ち上がらせます。
- ④ 移乗先の車いすへおしりを向けます。
- ⑤ 車いすのシート（座面）の奥まで座れるように、ゆっくりと腰を下ろしてもらいます。
- ⑥ アームサポート（肘置き）、フット・レッグサポートを元に戻し、固定していることを確認してください。
- ⑦ フットサポート（足置き）を下ろして両足をのせます。



- ⚠ 警告 ● 車いすが動き出し大変危険ですので、必ず駐車ブレーキをかけてください。
- 危険ですのでフットサポート（足置き）の上に乗らないでください。

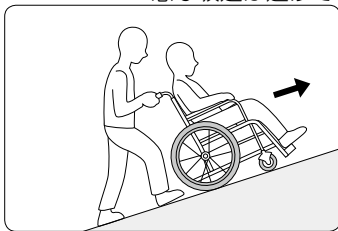
- ⚠ 注意 アームサポート（肘置き）やエレベーター式・フット・レッグサポートに戻すときは、衣服や手を挟み込まないように注意してください。

外出時の注意点

車いすの安全な使い方は、“ゆっくり”“確実に”が基本です。

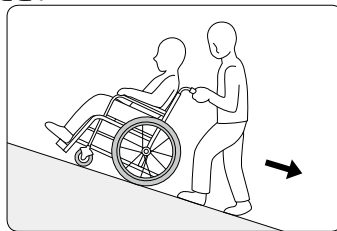
坂道

※介助用制動ブレーキが付いていないため、急な坂道は避けてください



〈上り坂〉

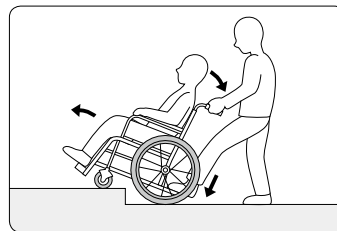
押す人は体を少し前に倒して、押し戻されないよう、一歩ずつしっかりと押します。



〈下り坂〉

坂を下るときは後ろ向きに一歩ずつ下ります。

段差のある場所



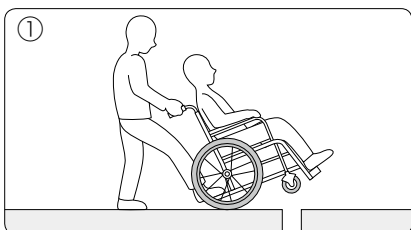
〈上がる時〉
ティッピングレバーを踏んでキャストを上げて進み、続いて主輪を押し上げます。

〈下るとき〉

後ろ向きでまず主輪をおろし、ティッピングレバーを踏んでキャストを上げたまま後進し、ゆっくりと下ろします。

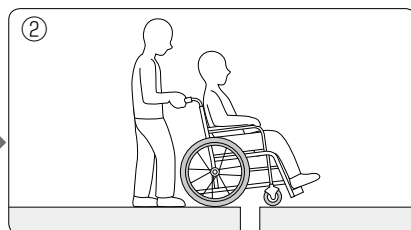
溝越え

※あらかじめ溝の大きさを確認し安全に渡れる場合のみ実施してください

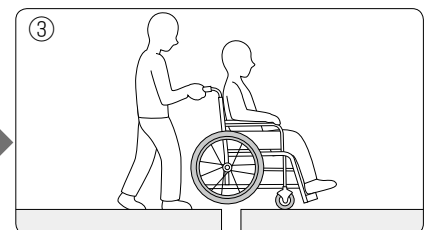


① ティッピングレバーを踏んでグリップ（押し手）を押し下げ、キャストを上げます。

※ この時、必ず声をかけてから行います



② キャスタを上げたまま前に進み、溝を越えた向こう側にキャストをゆっくり下ろします。



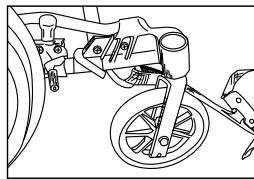
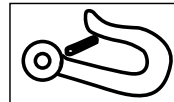
③ 次に主輪を持ち上げて前に進み、溝を完全に越えたところでゆっくりと主輪を下ろします。

- ⚠ 注意 転倒防止に十分配慮してください。（転倒防止バーのご利用や、車いすの後方を支えるなどの方法があります。）

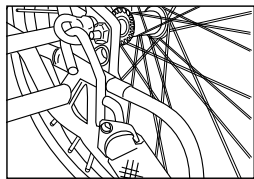
搬送について

本製品の本体フレームにベルト固定位置を示すマーク(右図)があります。

本製品を自動車にのせる際は、車いすを自動車に固定するためのベルトを使い、固定してください。



前方取付図



後方取付図

※固定用のベルトは、0度～45度の範囲で取り付けてください

※後方固定は、「トランスポート・アタッチメント(別売)」を取り付け、固定することをおすすめします

- △注意**
- 車いすを自動車に固定するためのベルトは、利用者の体を固定する安全ベルトとは異なります。
 - 利用者の安全を確保するために安全ベルトを使用することをおすすめします。
 - ヘッドサポートを適切に調整していれば頭部は安定しますが、自動車で搬送を行う際には十分でないことがあります。

7 お手入れの方法

- ご使用前には必ず下記の事項を点検・整備し、常に安全な状態で使用してください。
 - ① キャスタ・駆動輪・駐車ブレーキなどのゆるみを点検し、ゆるんでいるときは、当社にご連絡ください。
 - ② ブレーキの利き具合が悪いときは、当社にご連絡ください。
- 車いすは湿気に弱いため、水のかかる場所などに放置しないでください。
- フレームはときどき乾いた布でふいて、汚れを除いてください。
- シートが汚れたときには、水を含ませた布を固く絞り、シートの表面の汚れをふき取ってください。

8 故障かな?と思ったら

故障でない場合もありますので、修理を依頼される前にもう一度、以下の項目をチェックしてください。

症状	考えられる原因	処置
車いすがふらつく まっすぐ進まない	キャスタが左右同じ高さになっていない	キャスタの調整が必要です。当社にご連絡ください
	利用者の体重が片側に寄っている	体重が均等にかかるように座りなおしてください
	車いすを動かす際に片側に力が加わっている	両側にできるだけ均等に力を加えてください
	駆動輪が固定されていない	ゆるんでいる場合は左右の駆動輪が確実に固定されているか確認してください。当社にご連絡ください
	ネジ・ナット・ボルトが締まっていない箇所がある	すべてのネジ類が締まっているか確認してください。ゆるんでいる箇所があれば、当社にご連絡ください
車いすが重く 操作しづらい	キャスタが左右同じ高さになっていない	キャスタの調整が必要です。当社にご連絡ください
	キャスタに埃などが巻き付いている	キャスタを手で回転させて、巻きついているものを取り除いてください
	キャスタに体重がかかり過ぎるなどバランスが悪くなっている	全体的な調整が必要です。当社にご連絡ください
	駐車ブレーキがかかっている	駐車ブレーキを解除してください
駐車ブレーキが 利かない	駆動輪が磨耗している	駆動輪の交換が必要です。当社にご連絡ください
	ブレーキパッドが駆動輪に当たっていない	駐車ブレーキの調整が必要です。当社にご連絡ください
	駆動輪とブレーキパッドの間に障害物がある	障害物を取り除いてください
キャスタが ガタつく	キャスタが左右同じ高さになっていない	キャスタのクイックリリースが外れていないか確認してください
	キャスタに体重がかかり過ぎるなどバランスが悪くなっている	全体的な調整が必要です。当社にご連絡ください

※チェックをしても正常に使用できない場合、または破損や異常を発見した場合はすぐに使用を中止して、当社にご連絡ください

9仕様

※下記寸法は背クッション、専用クッションを含まない寸法です

製品名	アクトモア ネットィⅢ	
本体外形寸法 (全長×全幅×全高)	94×62・64×113~133cm	
座幅	38・40cm	
座奥行	40~50cm(5段階調節)	
前座高 / 後座高 ※地上高から座面までの高さ	42~46cm / 42・45cm	
背もたれ角度調整 (リクライニング機能)	88~120度	
座面角度調整 (ティルト機能)	前傾11~後傾14度	
アームサポート(肘置き)高 ※座面からの高さ	18.5~32.5cm(6段階調整)	
フットサポート・シート間距離 ※地上高から5cm上げた状態での高さ	30~41cm(エレベーター角度:80度)	
ヘッドサポート	寸法	標準仕様/Aタイプ(コの字形状):幅30×高さ18cm オプション/Cタイプ(ワイド形状):幅37×高さ15.5cm オプション/Dタイプ(枕形状):幅27×高さ15cm
	調整範囲	左右10cm、前後9cm、上下30cm、全方向30度回転
重量	約33kg	
キャスト径	6インチ(ノンパンクタイヤ)	
主輪径	22インチ(ノンパンクタイヤ)	
使用者最大体重 (積載物も含む)	145kg	
標準装備	専用クッション、背クッション、転倒防止バー(ティッピングレバー)	

■製品の仕様は予告なしに変更することがあります。あらかじめご了承ください。

株式会社フロンティア

フクシのコトハ

フリー
コール **0120-294-518**

千葉本社 福祉本部 〒261-0002
千葉県千葉市美浜区新港 42-4
TEL.043-301-8338



●アフターサービスのお問い合わせ

取扱店